

会員だより



平成27年度北丘高架橋下部工工事

今回、弊社が施工致しました、沖縄総合事務局発注の「平成27年度北丘高架橋下部工(UDP10、UDA2)工事」は、一般国道329号の南風原バイパスとして南風原町与那覇から那覇市上間の区間を結ぶ2.8kmの道路であり、その北丘高架橋における橋脚1基、橋台1基の築造及び排水工事の一区間を建設する工事でありました。

現場の特性としては、橋脚・橋台それぞれ「厳しい自然・地盤条件への対応」が必要でした。また、近隣周辺に住宅街や商業施設、学校や保育園などがあり、交通量が多い為、一般車両や地域の方々に配慮しながら工事を行うよう心掛けていきました。

特にA2橋台での法面に対する「多段式土留め」の提案やP10橋脚における地盤の変位抑制対策など、さまざまな工夫を行い工事を進めていきました。また、隣接する施工者と安全協議会を設置し、毎朝、近隣の通学路にて児童の交通誘導を行ったり、地域のイベントに協力したり、積極的に地域の皆さんと交流を行っていきました。結果、苦情もなく無事故・無災害で工期内に工事を完成することができました。

今回の工事で、沖縄局から「局長賞」を頂いたことや日経コンストラクション(H29.12.25号)に掲載されたことは、地域住民の御協力や隣接工区の御協力、発注者の御指導のおかげだと思っております。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。



【土木部：安谷屋 元樹】

株式会社 豊神建設 代表取締役社長 上原 進



児童の交通誘導

子供会からの感謝状にニッコリ

活動報告・トピックス



①平成30年新春道路建設講演会・懇談会の開催!

(一社)日本建設業協会沖縄支部は、1月10日(水)、平成30年新春道路建設講演会・懇談会を那覇市のザ・ナハテラスで開催しました。講演会では沖縄総合事務局の菊地春海次長が「沖縄の振興・発展に向けた社会資本整備」と題して、最近の情勢、沖縄の観光施策と観光客の動向、沖縄の発展に向けた社会資本整備、新たな交通環境の創造等について講演しました。

平成30年度予算のうち、公共事業関係経費については主要事業は前年度とほぼ同額を確保する見通しだと述べ、過去最高を記録している観光とともに、ここ数年公共事業は順調に推移するだろうとの見解を示しました。観光施策としては、沖縄県観光振興基本計画で世界水準の観光リゾート地を目指すとし実現に向けては、次代をみずえた社会資本の整備と賢い活用、再構築が必須だと強調された。

観光客の動向については、右肩上がりに増加しており平成28年度は過去最高を記録している。とくに外国人の増加が著しくクルーズ船の寄港は過去最多で全国1位を記録した。増加する観光客に対応するため那覇空港滑走路増設事業、国際線ターミナル地域再編事業、クルーズ船受け入れのための港湾事業が重要とした。また、交通機関や道路に関する観光客の最大の不満が交通渋滞であることから道路渋滞削減施策として、容量拡大施策(2環状7放射道路)や公共交通等の利用促進の取組が紹介された。

講演会終了後、会員、沖縄総合事務局、沖縄県、その他関係機関の多数が集い新春懇談会が開催されました。

会の冒頭、与那嶺支部長は「昨年に引き続き、県内では、大型工事の進捗や観光客の増加などで明るさが見え始めている。一方、建設業界では技術者・技能者の高齢化と若年層の業界離れが深刻な



講演会で挨拶する菊地次長

今月の予定

- ①第3回常任幹事会 支部会議室
2月16日(金)12:00～
- ②第138回 道路美化・清掃活動
2月23日(金)10:00～ 前半グループ
- ③第4回技術・積算委員会 支部会議室
2月22日(木)11:00～13:00

問題となっている。協会としても働き方改革を推進し若年層に魅力ある職場づくりに努めていく。」と挨拶しました。続いて沖縄総合事務局菊地次長、沖縄県宮城土木建築部長(上原土木整備統括監代読)の来賓挨拶があり、沖縄総合事務局の望月企画調整官の乾杯の音頭で幕開けし、盛会のうちに終了しました。



祝辞を述べる上原
沖縄県土木整備統括監



乾杯の前に挨拶する望月
沖縄総合事務局企画調整官



多くの関係者が集い賑わう会場

②第137回 道路美化・清掃活動

新年初のボランティア!今年もガンバロ~!

今年初となる第137回道路美化・清掃活動を1月16日(火)に12社、15名の会員協力のもと実施致しました。奥武山では来週から巨人キャンプも始まります。訪れる人が気持ちよく感じるよう今年も会員の皆さんの協力のもと美化活動に努めていきたいと思います。



会員



やんばる地を疾走!ツールド沖縄

会員の皆さんこんにちは。皆さんは昨年の11月12日にツールド沖縄(自転車レース)が開催されたことをご存知でしょうか。

ツールド沖縄には弊社がメインスポンサーを務める自転車ロードレースチーム「NIPPO・ヴィーニファンティーニ」も参加し、沖縄出身の内間選手をはじめ計4名の選手が走りました。弊社従業員・協力業者の有志合計38名で朝早くからレース会場に駆けつけ、スタート・フィニッシュ地点の沿道にチームの昇り旗をたてて応援しました。残念ながらレースの結果はあまりよくありませんでしたが、来年のツールド沖縄では表彰台に上がってくれるのではないかと勝手に期待しております。

我々38名はほぼ全員が初めて生で自転車レースを観戦したのですが、ゴール手前数百メートルから競り合いながらゴールに入ってくる選手たちのスプリントは、予想以上に速く、皆一様に驚いていました。普通の自転車を普通にしか乗ったことがない私は、自転車でこんなにも速く走れるものなのかと感動すら覚えました。皆さんも是非来年のツールド沖縄を生で観戦してみてください。

株式会社 NIPPO 沖縄統括事業所長 齋藤 毅

そして是非とも、「NIPPO・ヴィーニファンティーニ」の応援をどうぞよろしくお願い致します。



熱血応援団!

スタート前内間選手インタビュー



レース後!記念撮影

【総務担当：平岡 克也】



熱心に講演を聴く会員の皆さん



開会挨拶する与那嶺支部長